

住民と
ともに
がんばる

力あわせて実現しました

日本共産党は市民の願いが、一步でも二歩でも前進できるように議会で取り組んできました。市民との共同で政治を大きく動かしています。また、各党との共同も大切に取り組んでいます。

- 子ども医療費助成を中学卒業まで拡充し就学前の所得制限を撤廃
- 妊婦健康診査の全額公費助成
- 江坂地域に病児・病後児保育室を設置
- 認可保育所を整備し定員を315人増加
- 障がい児の学童保育を4年生まで延長(6か所)
- 公立保育園の民営化を一時ストップ



- 公立幼稚園全園で通園児の預かり保育実施
- 学校・幼稚園に順次エアコンを設置
- 学校・幼稚園の耐震化(2015年度完了)
- 学校図書標準冊数100%達成



- 交通災害・火災共済の廃止提案を否決し存続
- 無担保無保証人融資限度額600万円を1千万円、4年返済を7年に拡充
- 学童農園の廃止を止めさせる

- 重度障がい者が入居できるケアホームと多機能施設 仮称「くらしの場」土地確保

- 千里山コミュニティセンター、千一コミュニティセンター設置
- 岸駅駅前南側バリアフリー、駅前広場の整備
- 千里山駅周辺整備
- さんくす夢ひろば整備
- 千里丘図書館設置
- 千里ニュータウンプラザ設置



- 特別養護老人ホーム140床を増床(第5期介護保険計画)
- 中の島・片山工区で浸水対策着手
- 老朽水道施設耐震化
- 福祉避難所を12か所指定



共同も
大切に

「集団的自衛権の行使容認の解釈改憲を行わないよう求める意見書」を2014年3月議会で採択しました。さらに有志議員でよびかけて集会とパレードにとりくみました(写真)。共同を大切にする日本共産党です。

河野談話見直しの動きと連動した「慰安婦問題についての再検証を求める意見書」は否決

日本共産党の反対意見(討論から抜粋しました)

吹田市議会は2010年に河野談話に基づいて「慰安婦」問題の真相究明、被害者の尊厳回復を求める意見書を可決している。今回、吉田証言が撤回されたことをとらえ「慰安婦」問題の再検証をもとめ、ひいては河野談話の見直しを狙うものである。

1991年にキム・ハクスンさんが「慰安婦」としてはじめて実名で記者会見をし、日本政府を提訴した裁判をきっかけに、政府が調査をし、「慰安婦」の連行や管理に日本軍の強制があったことを正式に認め、1992年に河野官房長官が河野談話を発表した。

吉田証言に影響されることなく裁判、国連、国際社会で「慰安婦」の実態を認めることが定着している。日本人としての誇りが傷つけられるという意見もあるが、都合の悪い歴史を隠すことこそ、もっとも恥ずべきだ。未来に責任をもつならば、歴史の真実と正面から向きあうべきである。

意見書の状況



	日本共産党 (8人)	公明党 (7人)	自由民主党 の会(6人)	吹田翔の会 (4人)	吹田新選会 (3人)	連合(2人)	民主市民 自治(2人)	すいた市民 ネットワーク(1人)	吹田いきいき市民 吹田(1人)	みんなの クラブ(1人)	すいた市民 クラブ(1人)	無所属 クラブ(1人)	可否
日本共産党提案	○	○	○ (藤木欠席)	○	×	○	○	○	×	○	○	○	可決
公明党提案	×	○	○ (藤木欠席)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
新選会提案	×	退席	○ (藤木欠席)	×	○	×	×	×	○	×	○	○	否決

※公明党提案「女性が輝く社会の実現に関する意見書」は、男女格差を固定化させる問題点があるので反対の意見を述べました。

※他に「難病対策の充実等に関する意見書」「地域の中小企業振興策を求める意見書」は全会一致で可決されました。